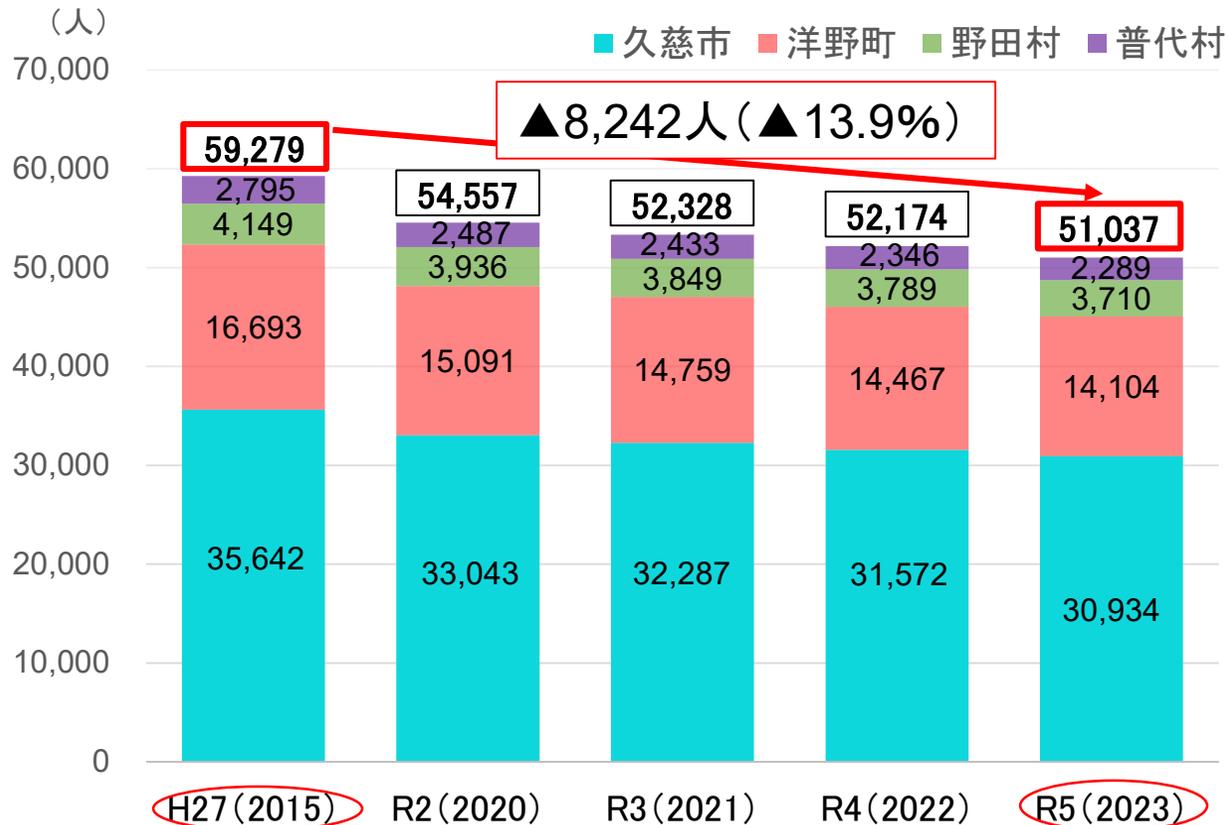


# 【資料2】 県北広域振興圏の主な統計データ

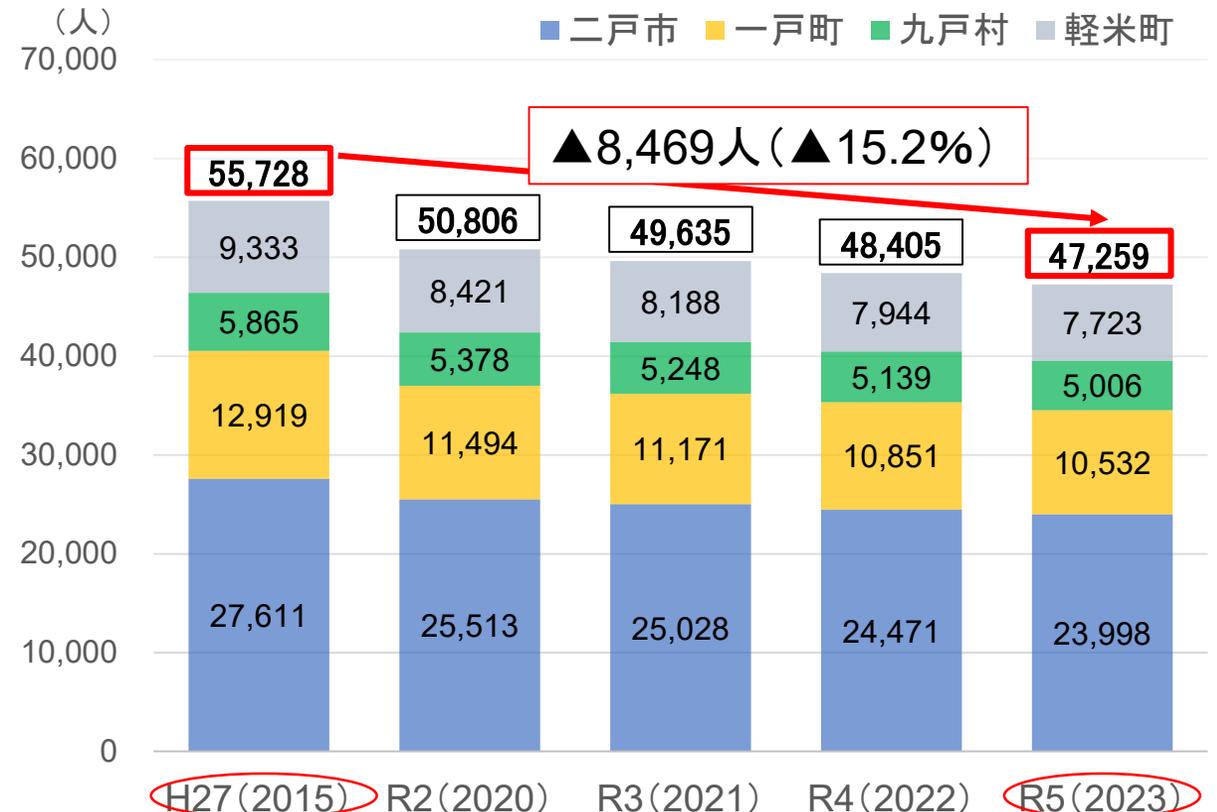
## ① 人口の推移

- ・ 久慈管内におけるR5の人口は51,037人で、平成27年から8,242人（13.9%）の減
- ・ 二戸管内におけるR5の人口は47,259人で、平成27年から8,469人（15.2%）の減

### 久慈地域人口の推移



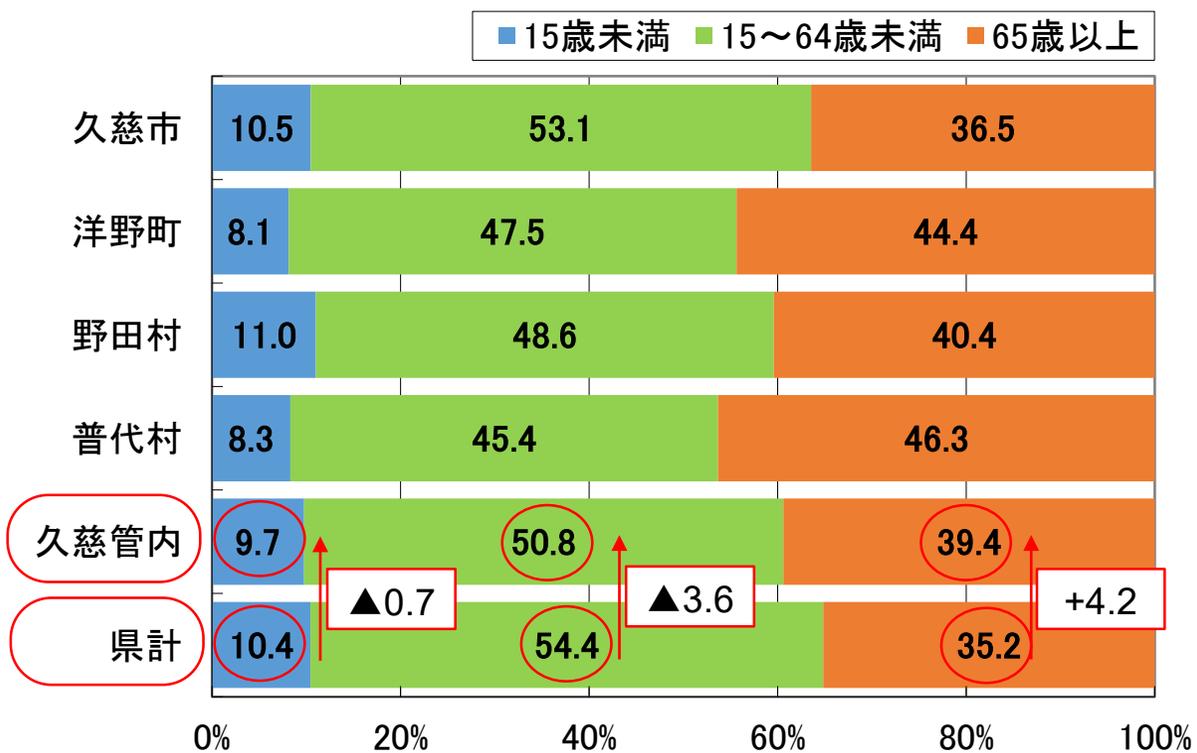
### 二戸地域人口の推移



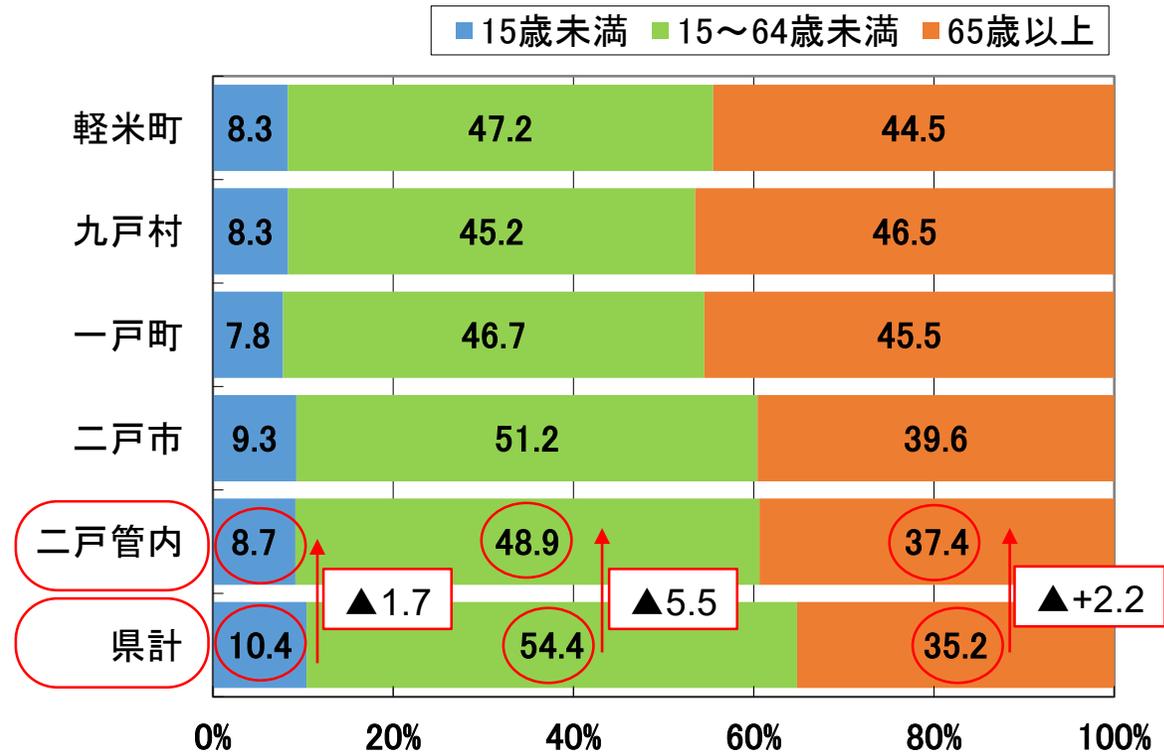
## ② 年齢別人口割合

- ・久慈管内は、全県と比較すると、15歳未満は▲0.7%、15～64歳未満は▲3.6%、65歳以上は+4.2%
- ・二戸管内は、全県と比較すると、15歳未満は▲1.7%、15～64歳未満は▲5.5%、65歳以上は+2.2%

### 年齢別人口割合(R5)



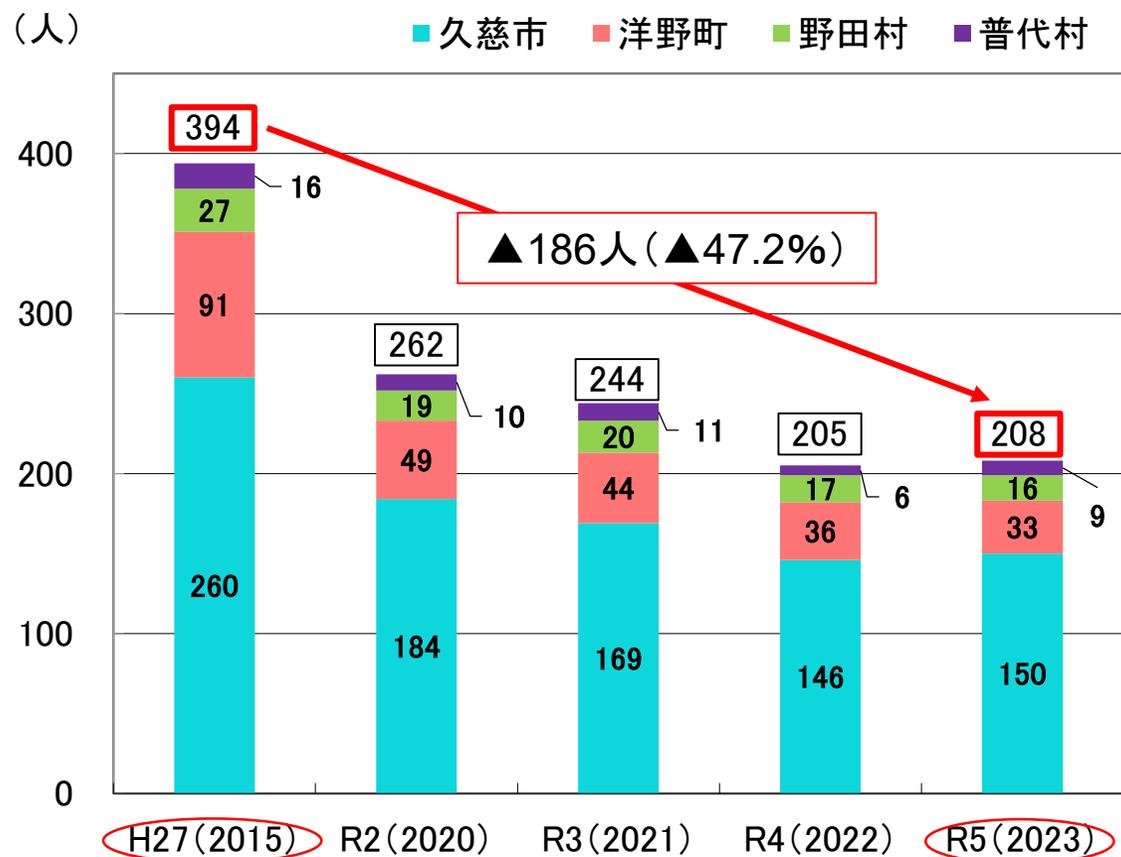
### 年齢別人口割合(R5)



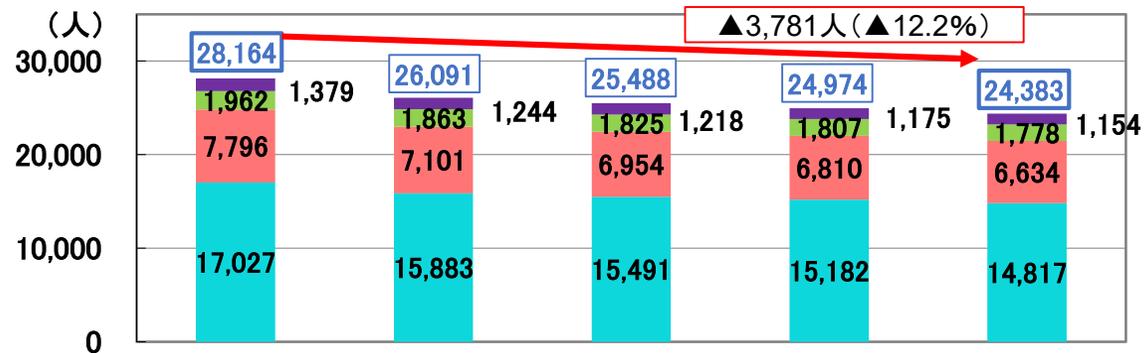
### ③-1 出生数、男性人口、女性人口（久慈管内）

R5の久慈管内の出生数は208人（H27比▲186人（▲47.2%））  
 男性は24,383人（H27比▲3,781人（▲12.2%））、女性~~は~~26,654人（H27比▲4,461人（▲16.7%））

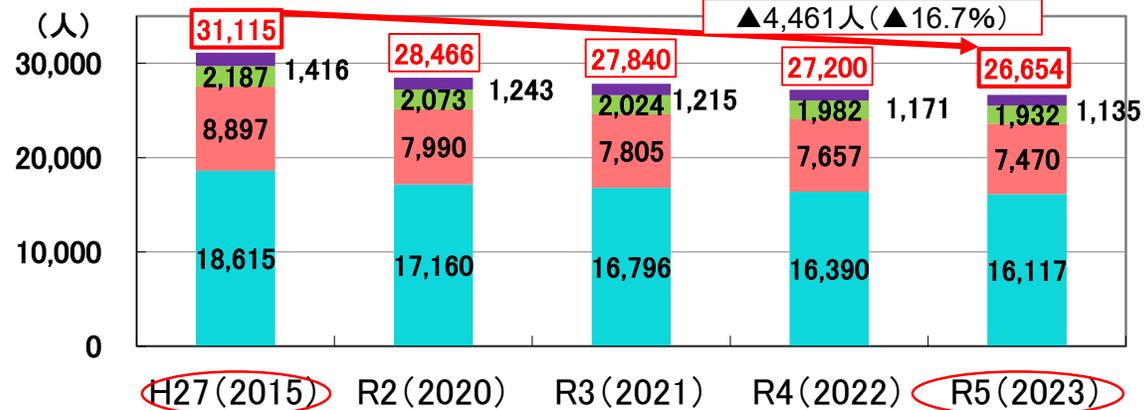
久慈地域 出生数の推移



久慈地域 男性人口の推移



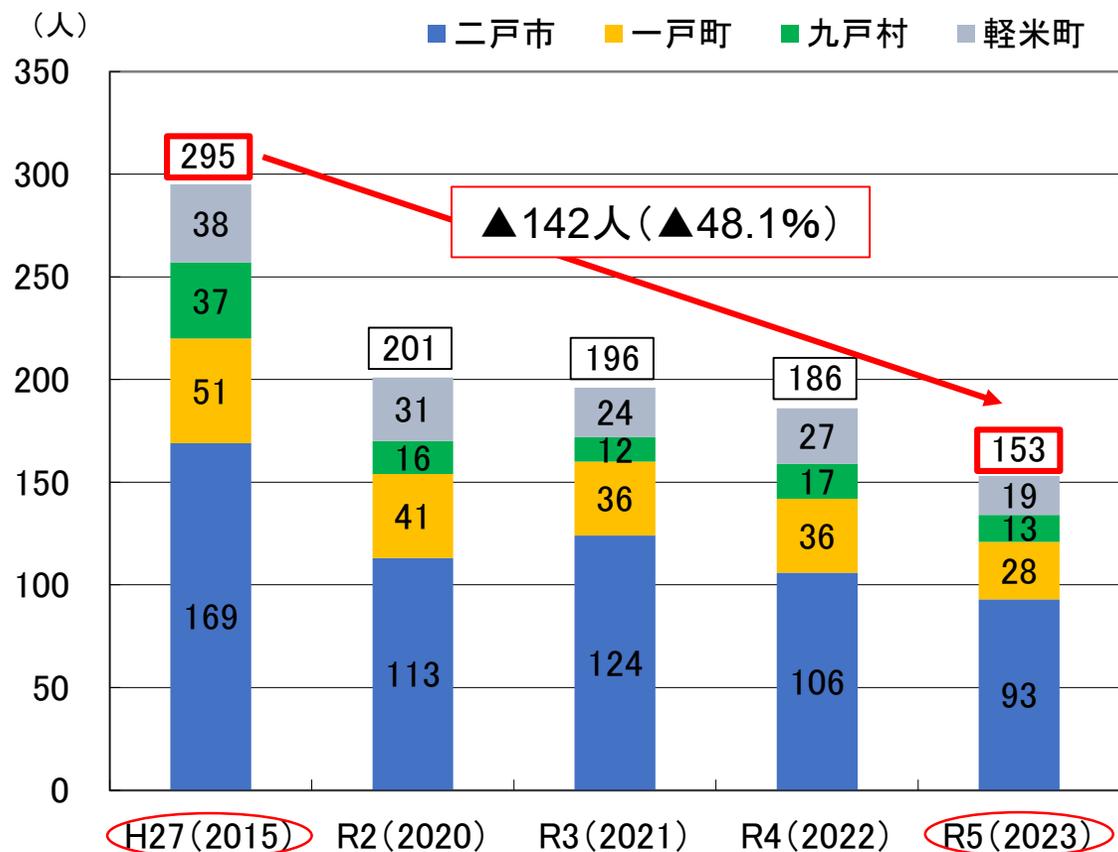
久慈地域 女性人口の推移



### ③-2 出生数、男性人口、女性人口（二戸管内）

R5の二戸管内の出生数は153人（H27比▲142人（▲48.1%））  
 男性は22,441人（H27比▲3,947人（▲15.0%））、**女性**は24,818人（H27比▲4,522人（▲15.4%））

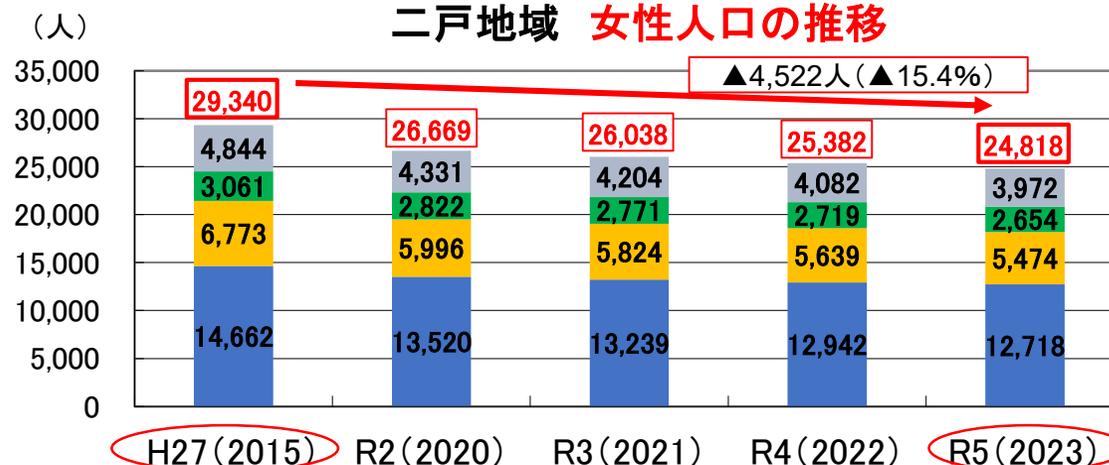
二戸地域 出生数の推移



二戸地域 男性人口の推移



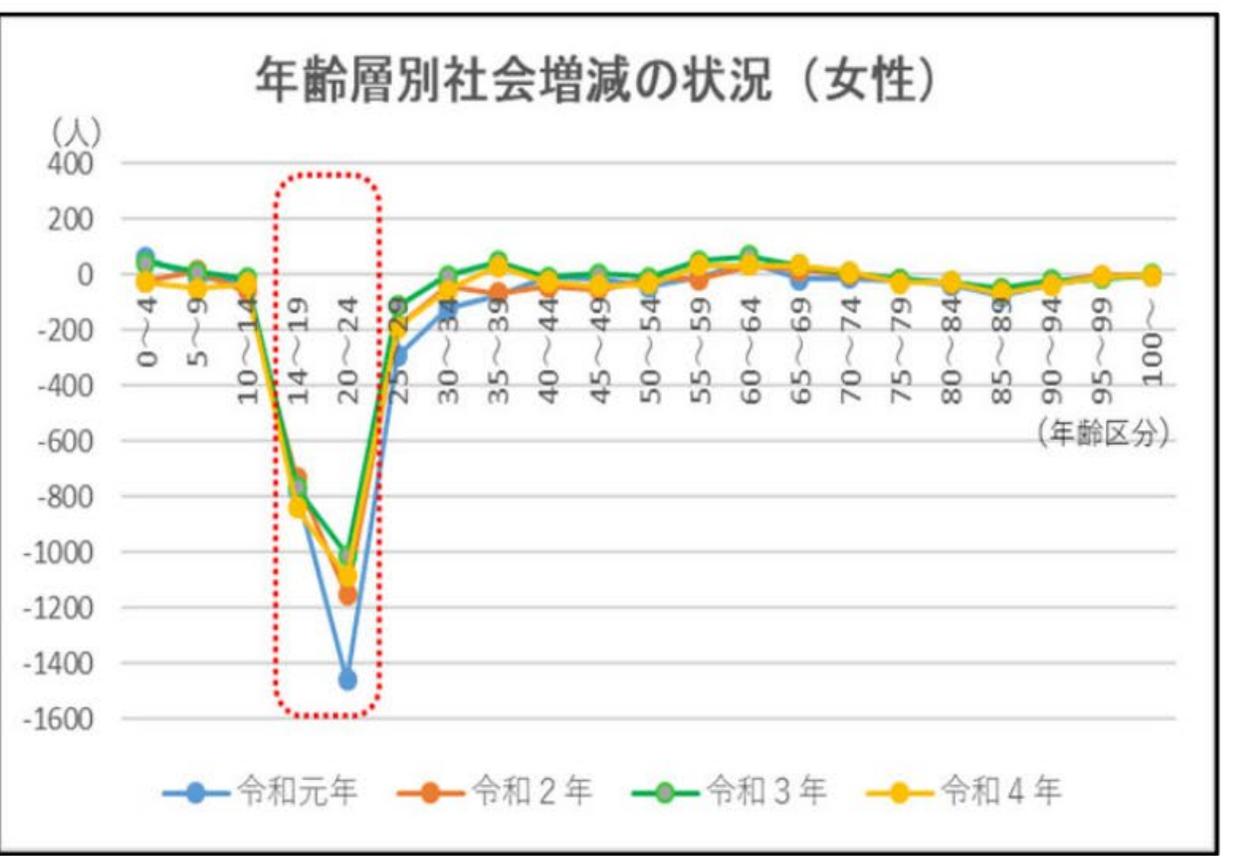
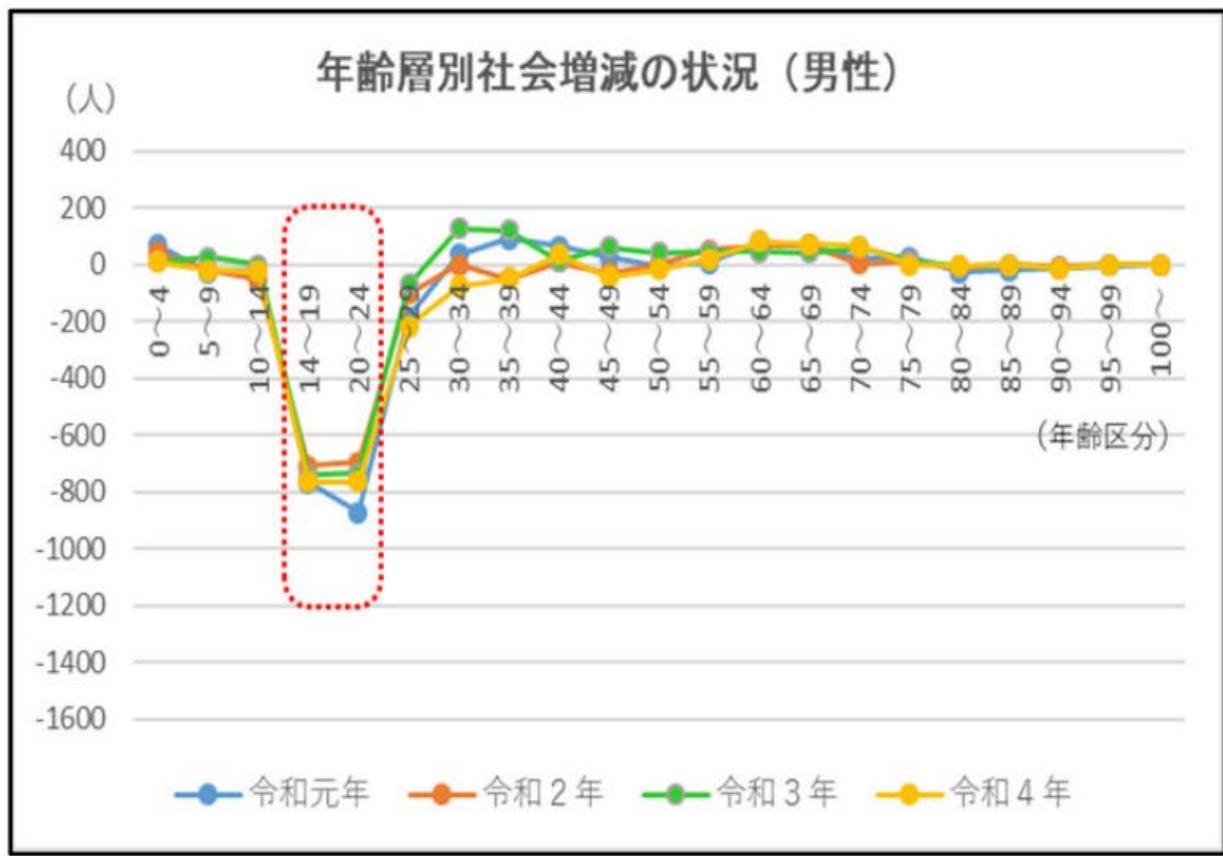
二戸地域 女性人口の推移





# ④岩手県の人口転出入の状況

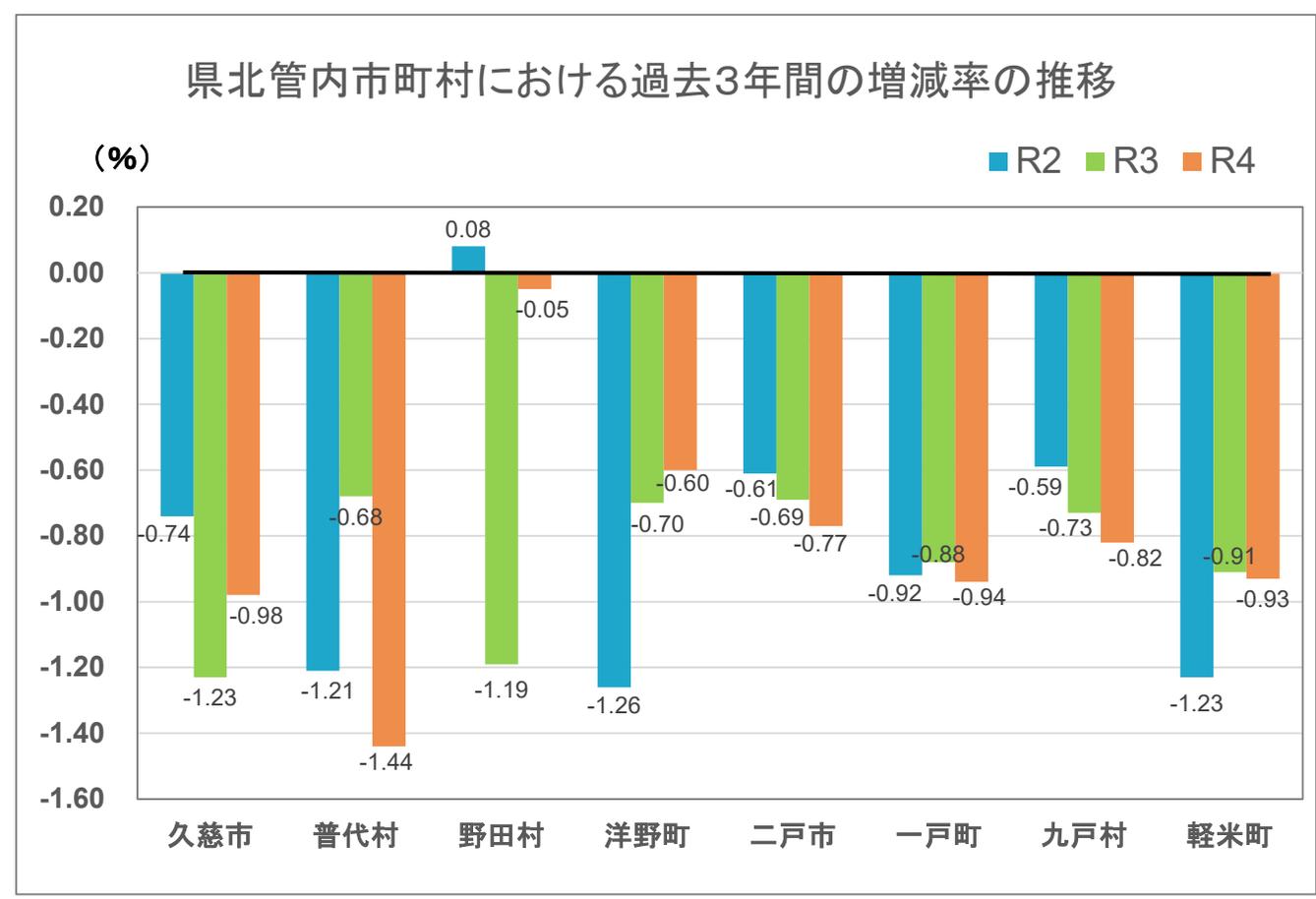
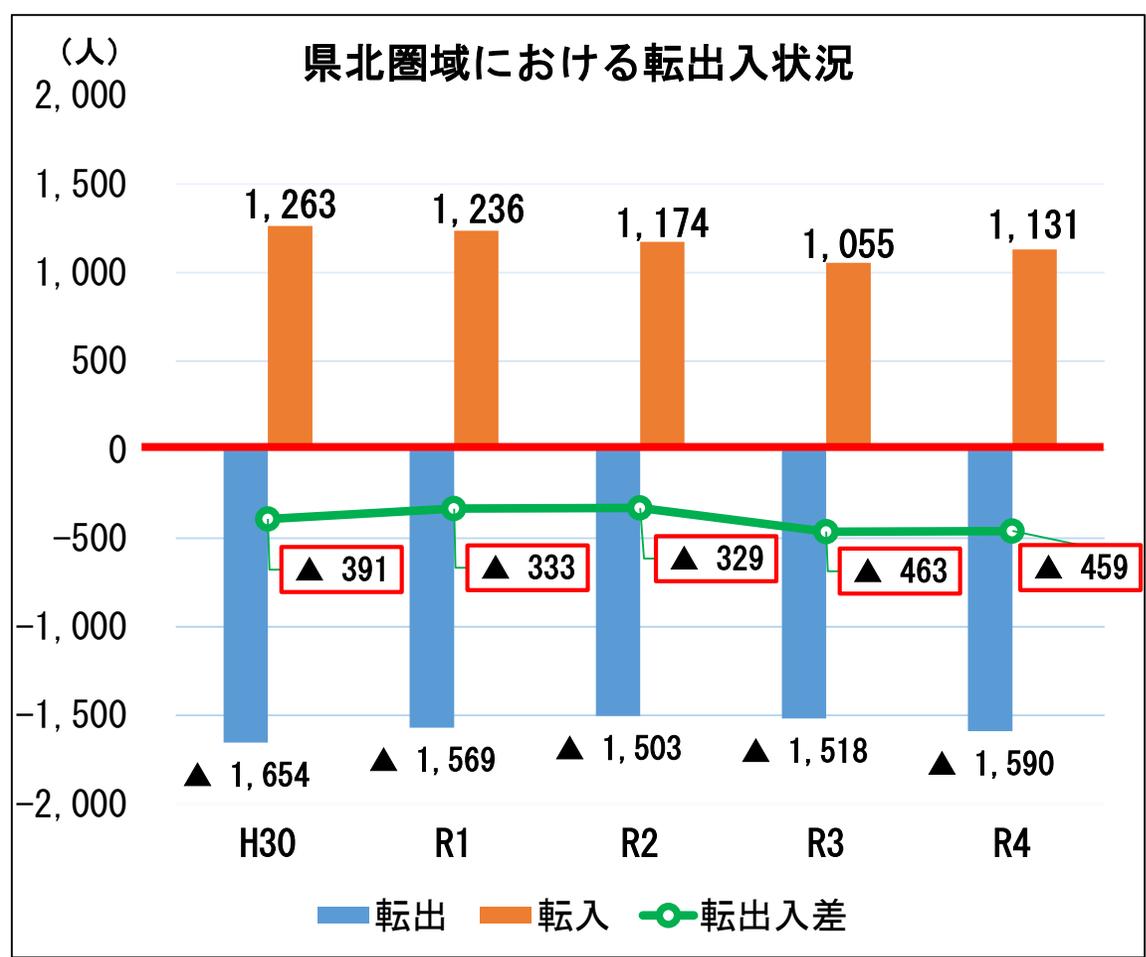
進学期に県外転出が一定程度発生する。  
特に20~24歳の女性は1,000人を超える転出超過。





## ⑤ 転出入の状況

- ・ 県北管内は400人から500人程度、転出者が上回る状況が続いている。
- ・ 管内市町村の社会増減率の推移をみると、野田村で一時プラスになったが、全体的にはマイナス傾向





## ⑥ 人口戦略会議「地方自治体『持続可能性』分析レポートの概要

- ・ 令和6年4月に「人口戦略会議」がレポートを公表
- ・ 若年女性人口（20～39歳）の減少率に着目し、地方自治体別に人口特性を9つに分類。

封鎖人口 移動仮定	減少率20%未満	減少率20～50%未満	減少率50%以上
減少率20%未満	<b>A</b> 自立持続可能性	D-① 自然減対策が必要	B-① 自然減対策が極めて必要
減少率20～50% 未満	D-② 社会減対策が必要	D-③ 自然減対策が必要 社会減対策が必要	B-② 自然減対策が極めて必要 社会減対策が必要
減少率50%以上	C-① 社会減対策が極めて必要	C-② 自然減対策が必要 社会減対策が極めて必要	C-③ 自然減対策が極めて必要 社会減対策が極めて必要

- ※ 縦軸及び横軸の「減少率」は若年女性人口（20～39歳）の減少率。
- ※ ブラックホール型自治体：B-①、B-②、消滅可能性自治体：C-①、C-②、C-③。

<注>

- ・封鎖人口 ...各自治体において人口移動がなく、出生と死亡だけの要因で人口が変化すると仮定
- ・移動仮定 ...移動傾向が一定程度続くと仮定
- ・ブラックホール型自治体...人口の増加分を他地域からの人口流入に依存しており、当該地域の出生率が異常に低い



## ⑥ 人口戦略会議「地方自治体『持続可能性』分析レポートの概要

・ 県北管内では、野田村がC-①、その他市町村がC-②に分類されている。

区分	対策必要区分	市町村
C-①	社会減対策が極めて必要	平泉町、岩泉町、田野畑村、野田村 (4 町村)
C-②	自然減対策が必要 社会減対策が極めて必要	宮古市、大船渡市、久慈市、遠野市、一関市、陸前高田市、釜石市、二戸市、八幡平市、奥州市、雫石町、葛巻町、岩手町、西和賀町、住田町、大槌町、山田町、普代村、軽米町、九戸村、洋野町、一戸町 (22 市町村)
D-②	自然減対策が必要	金ヶ崎町 (1 町)
D-③	自然減対策が必要 社会減対策が必要	盛岡市、花巻市、北上市、滝沢市、紫波町、矢巾町※ (6 市町) ※矢巾町は前回の消滅可能性から脱却

消滅可能性自治体

# いわて高等教育地域連携プラットフォーム

## 高等教育人材の県内定着促進ワーキンググループの活動について

～令和6年6月14日 第1回いわてで働こう推進本部会議資料（抜粋）～

### 1 概要

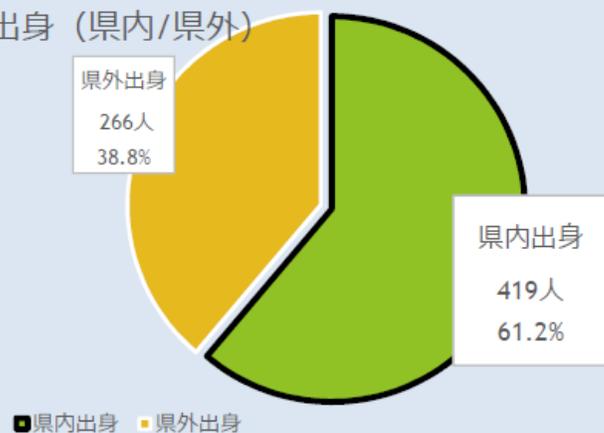
- 目的：
  - 就職に向けた準備や考え方、就職活動状況、就職先に求める要素などを調査
- 主な対象：県内高等教育機関の卒業年次の1年前の学年

回答数	岩手大学	県立大学	盛岡大学	富士大学	岩手医大	岩手保健医療大学	修紅短大	一関高専	計	
男性	63	82	1	47	9	11	4	55	272	39.7%
女性	95	105	9	34	32	57	41	20	393	57.4%
選択しない	6	3	0	2	1	0	4	4	20	2.9%
計	164	190	10	83	42	68	49	79	685	100.0%

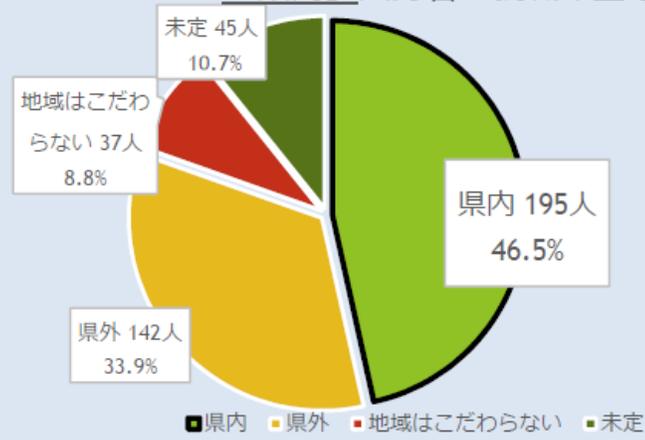
### 2 アンケート調査結果

- 県内出身者の県内就職希望は、46.5%と半数以下。

出身（県内/県外）



「県内」出身者の就職希望地



## 2 アンケート調査結果

➤ 県内出身者では、女性の方が県内就職希望割合が高い。

県内出身／「男性」の就職希望地



県内出身／「女性」の就職希望地

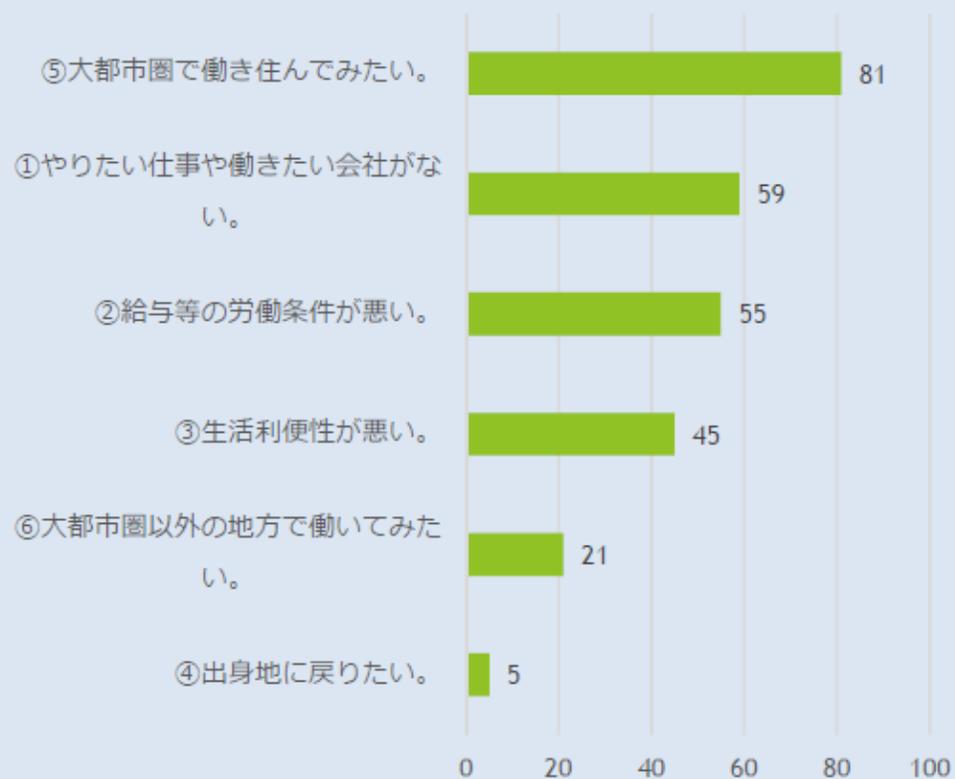


## 2 アンケート調査結果

- 県内就職を希望しない理由(県内出身者・県外出身者別)
- 都会(大都市圏)で働いてみたい→県外・県内問わず一定数あり。
- 県外出身者→「出身地に戻りたい。」希望多数。
- 県内出身者→「やりたい仕事や働きたい会社がない。」多数。→情報の不足も原因では？

県内就職を希望しない理由

(県内出身者)



県内就職を希望しない理由

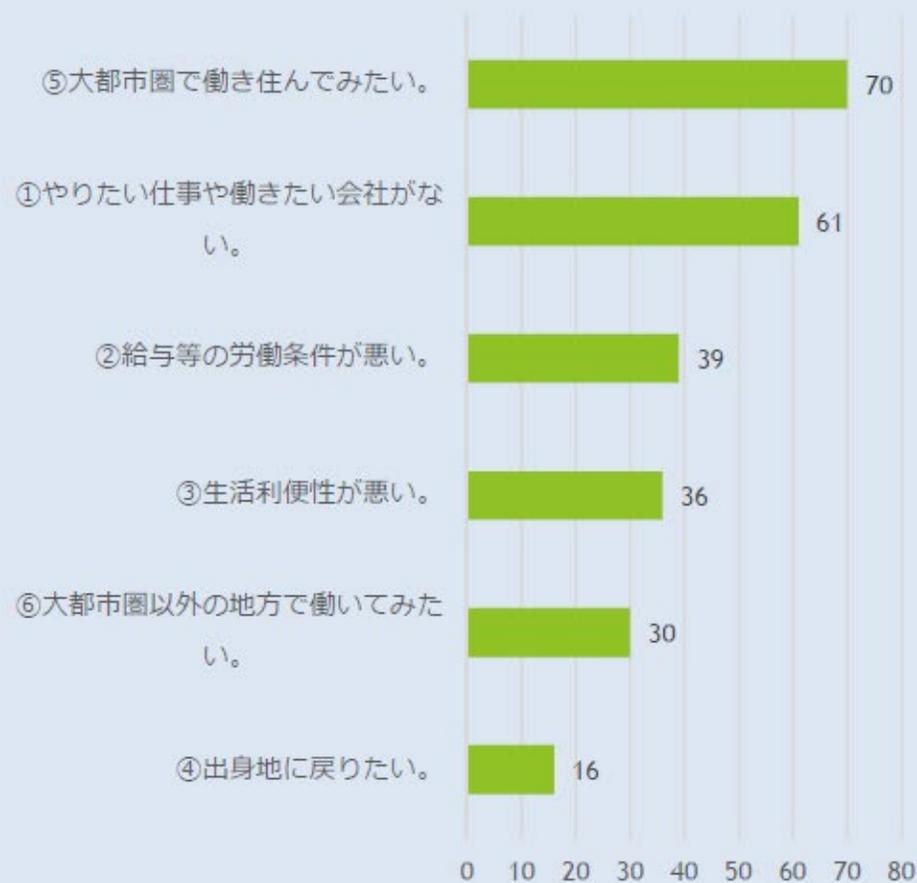
(県外出身者)



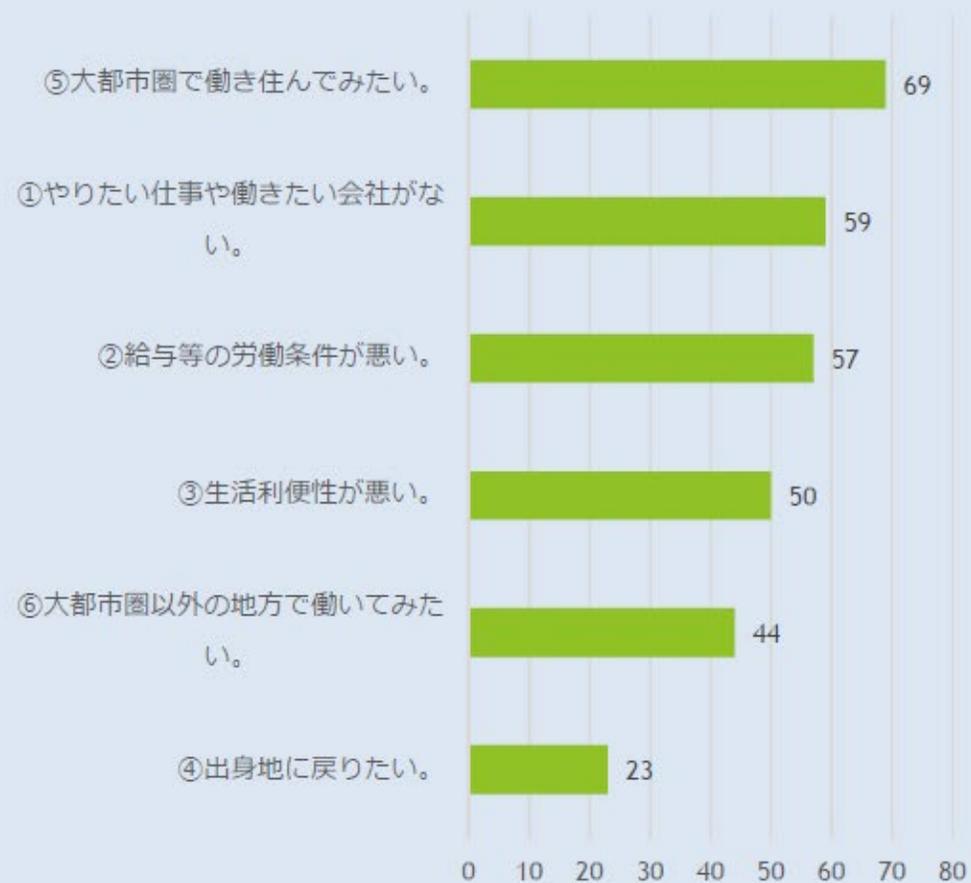
## 2 アンケート調査結果

- ・ 県内就職を希望しない理由(男性・女性別)
  - 男女ともに同様の傾向。

県内就職を希望しない理由 (男性)



県内就職を希望しない理由 (女性)



## 2 アンケート調査結果

➤ 上位の項目は男女ともにほぼ同じような傾向

就職先を考える上で重視する項目 (男性)

<1人5項目>



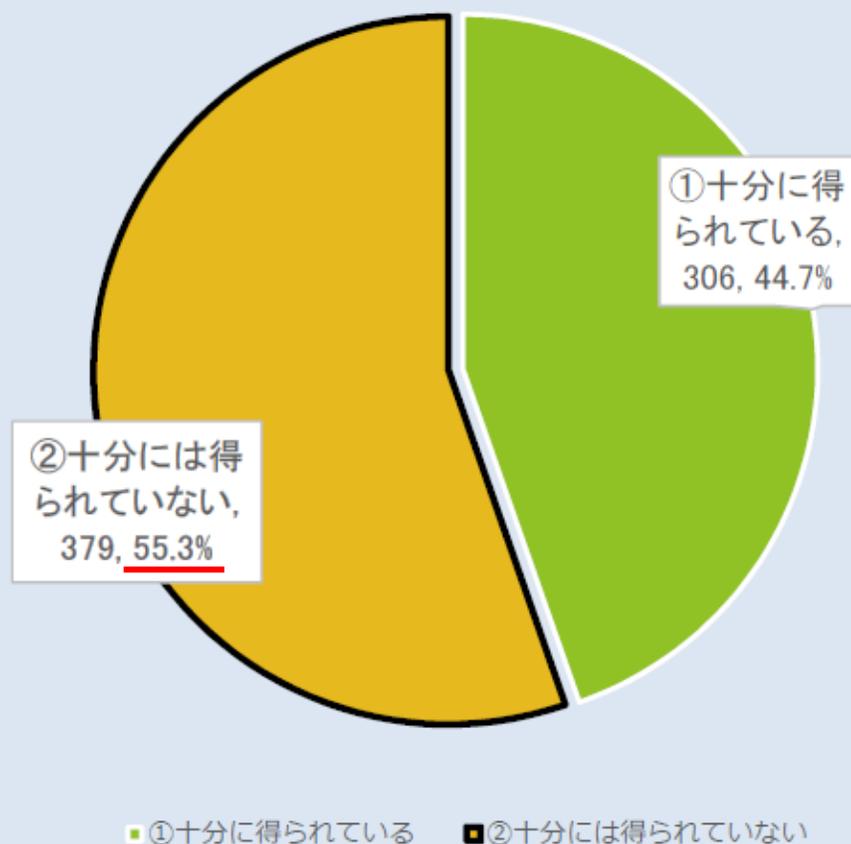
就職先を考える上で重視する項目 (女性)

<1人5項目>



## 2 アンケート調査結果

- 就職活動をするための十分な情報が得られていますか。



### 令和6年度の活動のポイント

- 県内企業の情報発信「方法」
  - 「既存の情報発信の仕組みを最大限活用！」  
「シゴトバクラシバいわて」など既に情報発信の仕組み自体はあり、大学等と連携し、既存の仕組みをどのようにしたら学生に活用してもらえるかを検討する。
  - 「インターンシップの内容を強化！」  
学生がインターンシップに期待することを整理し発信するとともに、未実施の企業が抱える課題を整理した上で、先進事例を収集し、インターンシップ活性化に向けた提案を行う。
- 県内企業の情報発信「内容」
  - 学生が知りたい求人情報の内容や企業情報を整理し県内企業と共有する。  
例えば、年収モデル、3年以内離職率、平均有給取得数、平均残業時間などが学生にとって参考になると考える。  
また、目的に応じた情報発信内容を検討する。  
(目的例)認知度・志望度を上げたい、ミスマッチを減らしたい